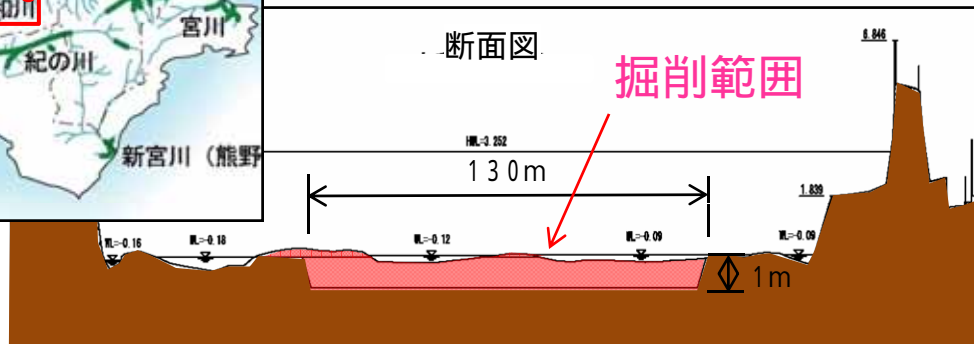
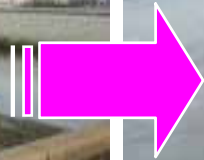


治水対策の方策の主な事例

河道掘削の事例 (大和川:大阪府大阪市・堺市)

掘削により河川の流下断面を拡大し、河道の流下能力を向上

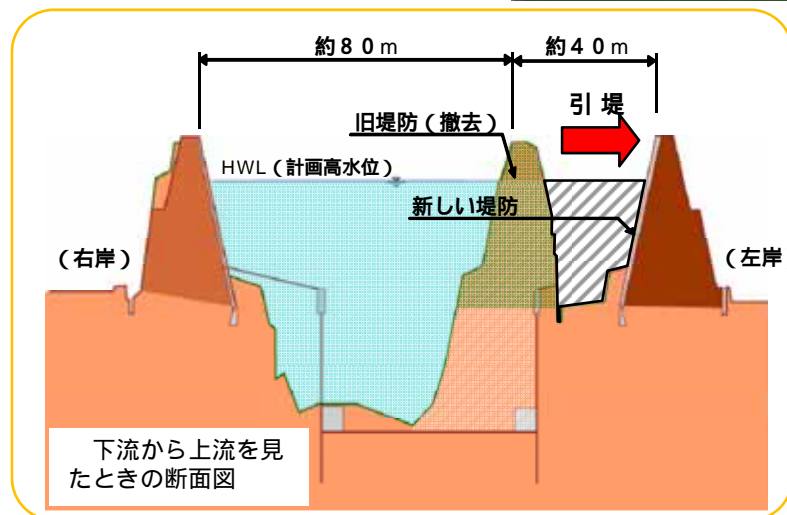


事業概要

全体事業費: 約90億円
事業年度: H10年 ~ H21年
工事概要: 浚渫量 120万m³

引堤の事例 かけはしがわ (梯川: 石川県小松市)

堤内地側に堤防を新築して、川幅を拡幅(引堤)し、河道の流下能力を向上



事業の概要

全体事業費: 約120億円
 事業年度: S61(測量着手) ~ H21年
 工事概要: 引堤延長約1500m
 補償家屋 114戸
 用地買収 8.2ha

堤防のかさ上げの事例 (荒川上流: 埼玉県さいたま市)

堤防の高さを上げることによって、河川の流下断面を拡大し、河道の流下能力を向上

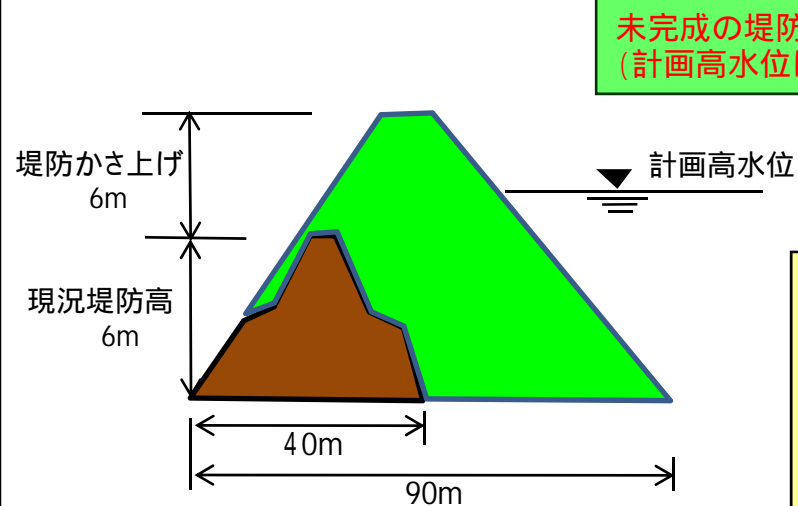
かさ上げ前



かさ上げ後



位置図



事業概要

全体事業費: 約250億円
事業年度: H17年～H26年(予定)
工事概要: 嵩上げ延長16.6km
用地買収約50ha

河道内の樹木の伐採事例(手取川:石川県能美市)

河道内の樹木群を伐採をすることで、河川の流下断面を確保し、河道の流下能力を向上



事業の概要

工事費:約3千万円

事業年度:平成14年度~平成16年度

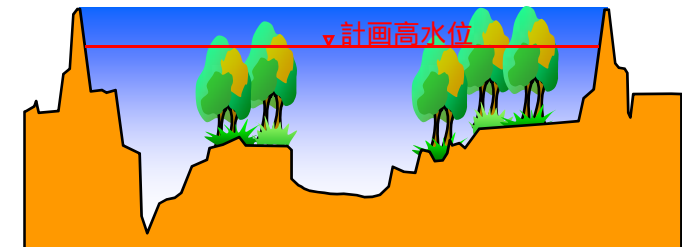
工事概要:伐採区間 0.2K~1.8K

樹木伐採 11万m²

位置図



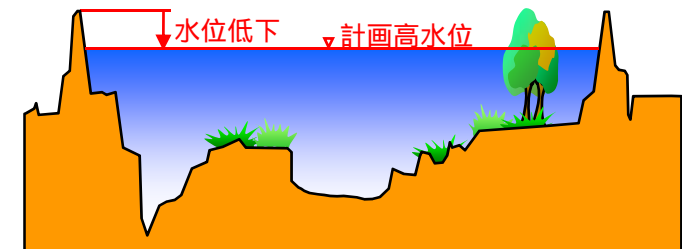
伐採前



河道内の樹木は、洪水の流れを阻害する



伐採後



河道内の樹木伐採を実施し、河道の流下能力を向上(水位低下)

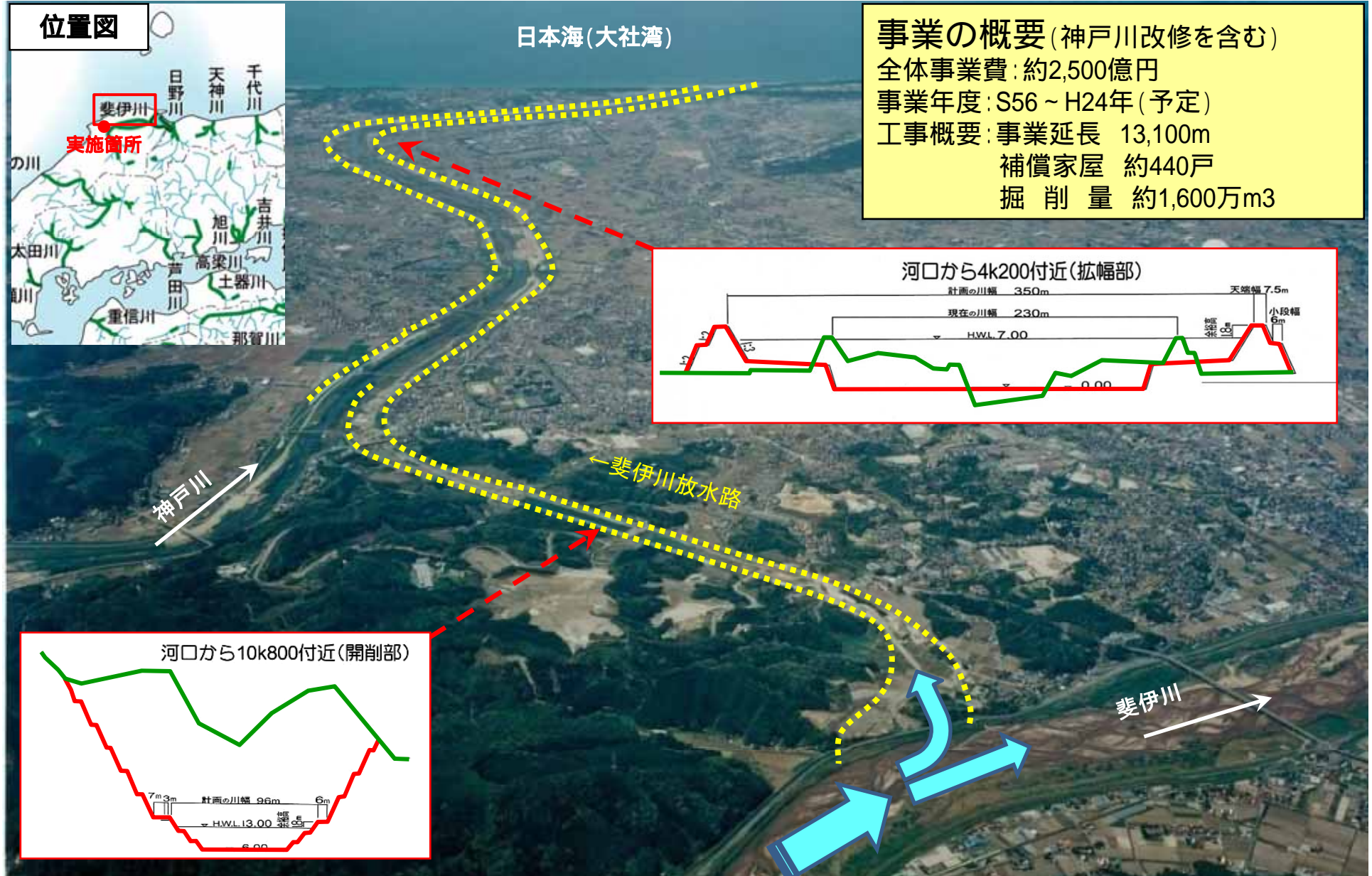
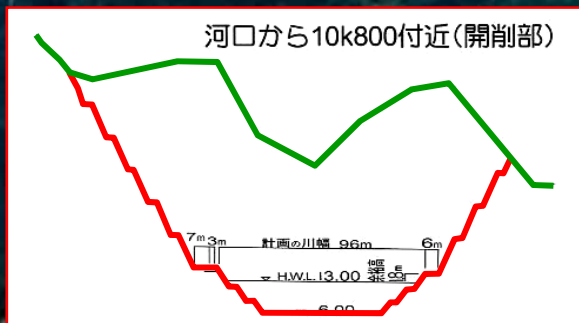
放水路の事例 ひいかわ (斐伊川: 島根県出雲市)

新水路を設け、洪水流を分流することで下流の流量を低減



日本海(大社湾)

事業の概要 (神戸川改修を含む)
全体事業費: 約2,500億円
事業年度: S56 ~ H24年 (予定)
工事概要: 事業延長 13,100m
補償家屋 約440戸
掘削量 約1,600万m³



遊水地の事例 (鶴見川: 神奈川県横浜市)

河道に沿った地域に洪水流の一部を貯留することで、下流のピーク流量を低減

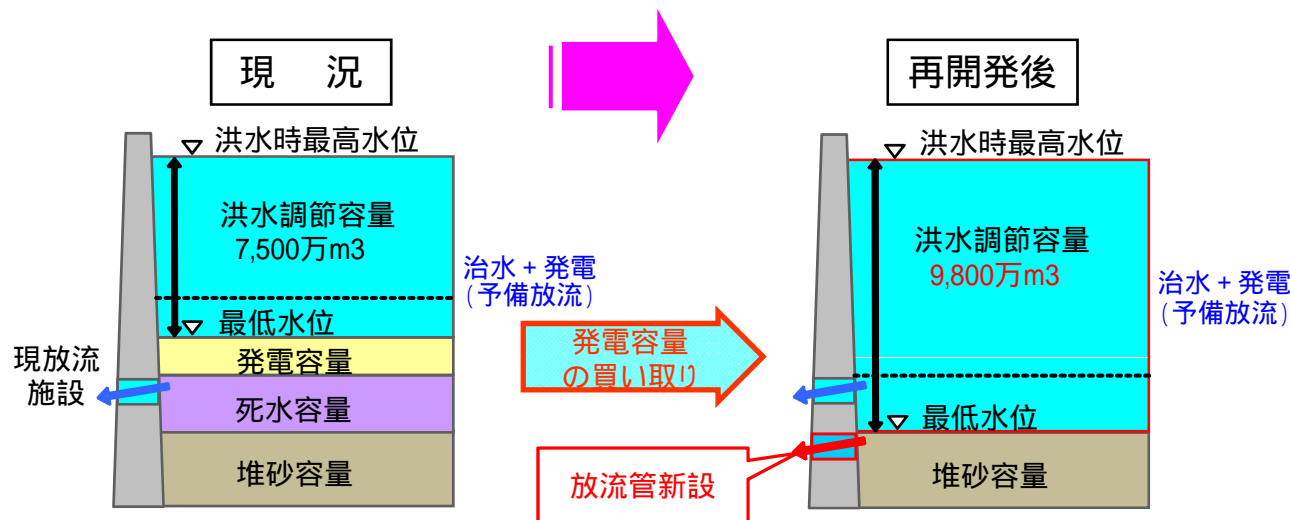
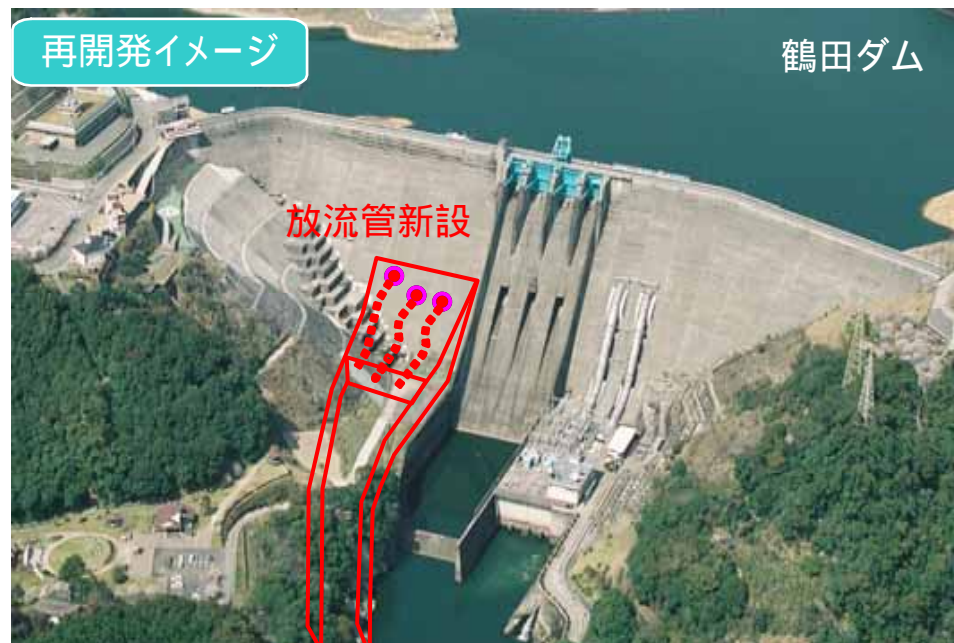


事業の概要

遊水面積 84ha
遊水地湛水容量 390万m³
事業期間 S59 ~ H15(暫定)
(S59より用地買収着手)
事業費 約 1,700億円
移転補償家屋数 36戸

既存施設の有効活用の事例 (鶴田ダム再開発 川内川:鹿児島県薩摩郡さつま町)

洪水調節容量の増量や放流管の新設により、洪水調節能力を增強し、下流のピーク流量を低減



事業概要
 全体事業費: 約460億円
 事業年度: H19 ~ H27年度
 工事概要: 洪水調節容量の増量、
 放流管等新設

排水機場の事例(円山川:兵庫県豊岡市)

自然流下排水の困難な低い地位域において排水用ポンプを設置し、堤防を越えて強制的に内水を排水

整備前



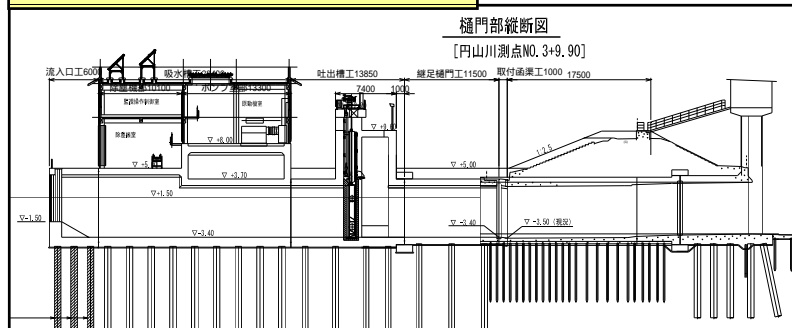
整備後



事業概要

全体事業費: 約20億円
事業年度: H17年 ~ H21年
工事概要: 排水機場一式
ポンプ 12m³/s 15m³/s

出水状況



貯留・浸透施設の事例

流域に雨水の貯留・浸透施設を整備し、流域から河川へ流れ込む雨水の量を減らし、下流の流量を低減

貯留施設の種類



校庭貯留施設の例

降雨時に、一時的に雨水を貯留

平常時



貯留時



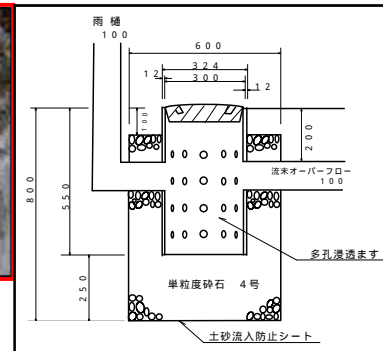
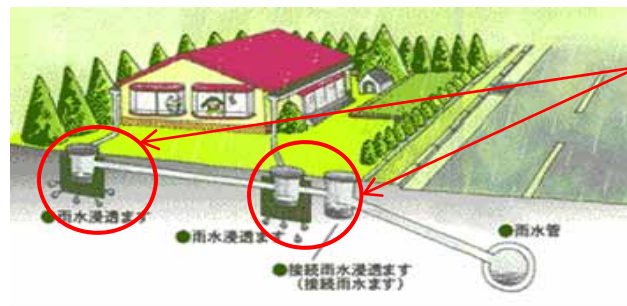
えだ
荏田南小学校(神奈川県横浜市都筑区)

浸透施設の種類



各戸浸透施設の例

【構造図】



降雨時に、浸透ます等で雨水を受け、地盤に浸透

下流の河川改修が十分でないため堤防高を低くしている事例 (筑後川水系城原川: 佐賀県神崎市) じょうばるがわ

城原川では、江戸時代、佐賀城下や穀倉地帯を洪水から守ること等を目的に設置
堤防高が約1～2m程度低く、河道から堤内地へ越水させることで、下流への流量を低減



3号野越し



3号野越し



平成21年7月26日の出水により、5箇所の野越しで越水が発生しました。

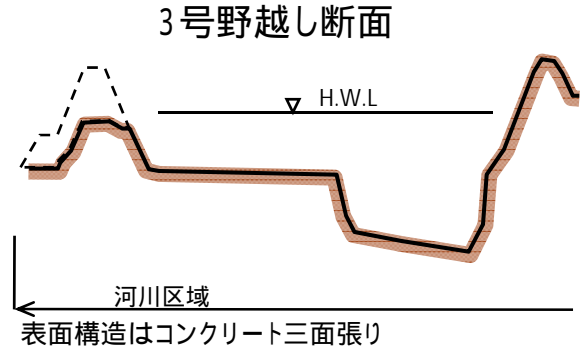
- 野越し箇所
- 今回の出水により越水した野越し箇所

3号野越し

今回の出水による野越しからの越水量は、20m³/s程度と推定される。検討中の数値のため、精査による変更の可能性ある。

【野越し】
下流の佐賀城下や穀倉地帯を洪水から守るため、また、堰にかかる水勢を軽減する仕掛けとして設けられた施設です。

城原川の野越し箇所



霞堤の事例(天竜川:長野県駒ヶ根市)

堤防の開口部(霞)において、背後地の雨水を排水し内水被害を抑制。また、洪水流の一部を背後地へ貯留することで、下流の流量を低減。上流の堤防決壊時には、はん濫流を開口部から河道に戻すことで、浸水被害を低減



輪中堤の整備と土地利用規制の事例 (阿武隈川上流: 福島県二本松市)

住宅等がある区域の周囲を取り囲む堤防(輪中堤)を整備し、輪中堤の外側のはん濫を許容することとなる区域において、新たな住宅が立地しないよう、建築基準法の災害危険区域を設定

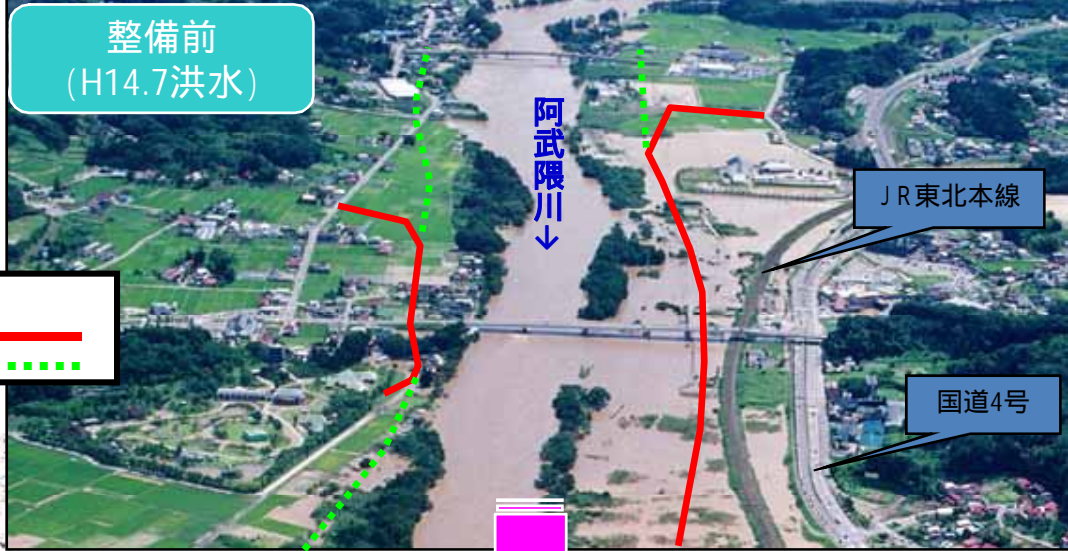
事業の概要

- ・全体事業費: 約73億円
- ・主な事業内容: 築堤4,190m、樋門5基

位置図



〔凡例〕
輪中堤(現計画): ——
連続堤(前計画): - - - -



平成14年11月29日 災害危険区域指定の条例施行(二本松市)
平成14年12月 1日 災害危険区域指定の告示(旧安達町)

ピロティ建築の事例

1階部分をピロティ(高床構造)とし駐車場などに利用することで、浸水時の被害を軽減



神奈川県横浜市鶴見区



福井県福井市

ピロティ建築に関する助成制度の事例 (東京都中野区)

平成17年8月及び9月の集中豪雨や台風等により大規模な浸水被害の発生を受け、平成17年12月1日より浸水被害を未然に防いだり、被害を軽くしたりするために、住宅高床工事(既存の住宅の床を上げる工事、新築時に高床式で建てる工事)の費用の一部を補助する制度。

引用:東京都中野区ホームページより